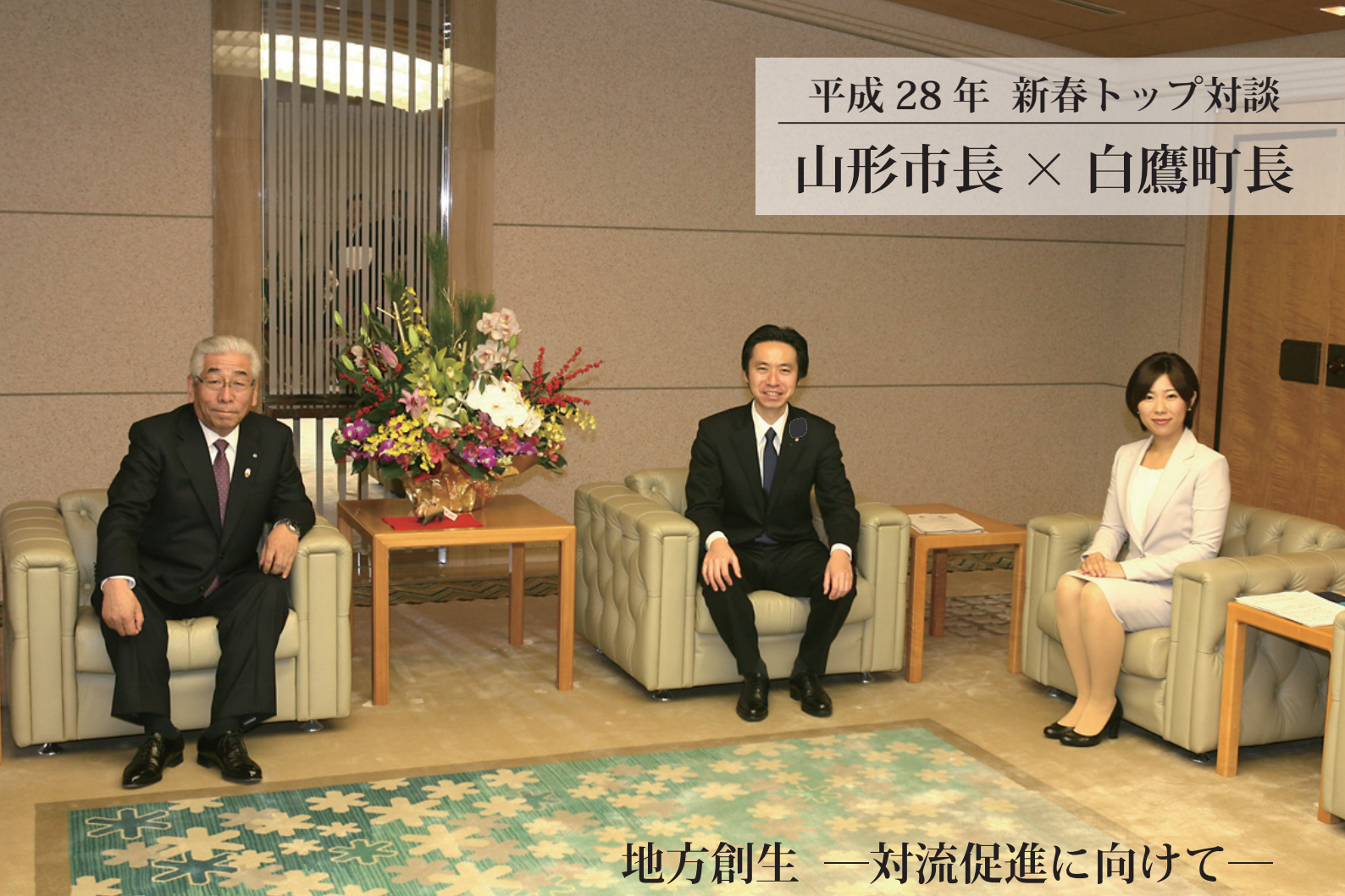


平成28年 新春トップ対談 山形市長 × 白鷹町長



地方創生 一対流促進に向けて一

京都“山形市”と日本の^{あか}紅をつくる町“白鷹町”

国道348号の全面開通。
あれから約四半世紀の“今”

司会 新年あけましておめでとうございませう。

佐藤(孝)・佐藤(誠) あけましておめでとうございませう。

司会 さて、平成4年、紅花国体開催に合わせて国道348号が開通しました。山形市と白鷹町は開通前から隣接する中で様々な関わり合いがありました。この国道の開通により、より一層の結びつきが強まったと皆さん実感しているところだと思います。両市町間の結びつきはもとより、村山圏域と置賜圏域も様々な面でつながりが深まり、特に観光面において交流が拡大しております。置賜圏域の広域連携が進む中で、村山圏域との交流、さらには、新潟・山形・仙台を結ぶ横軸として、特に観光面において交流が拡大していくことが期待されます。

まずは佐藤町長、どのように感じておられますか。

佐藤(誠) 山形県と言えば、紅花、最上川、蔵王、そしてサクランボが非常に大きな位置を占めておりますが、平成4年に国

道348号が開通したことにより、

物流、そして人

材の交流といっ

た様相が一変し

たと言えるほ

ど、本町におい

ては大きな変化が

あったと思っております。

佐藤(孝) 実は国道348

号の開通のときに私は山形

市にいなかったものですか

ら、私にとつては当たり前

の道路という感じなんです

ね。ただ、国道348号が

できたことよつて、まず

は白鷹町と山形市が完全に

通勤圏内になり、観光を含めたいろ

んな交流が非常に便利になったと思

います。実際に山形市民が白鷹町に

サクランボを見に行ったり、鮎やそばを

食べに行ったりしておりますし、私

自身もこれまで何度も伺いさせて

いただきました。交通というのは地

域と地域をつないで一つの経済圏に

するという効果があり、国道348

号はまさにその典型的な事例であり

ます。これをきっかけに山形市と白

鷹町の関係はより深まったと思いま

すし、これからさらに深めていき

たいと思っております。

深山工房「つち団子」金田利之さん制作の今年の干支「申(さる)」。山形市の初市では毎年大好評→

